あいちカーボンゼロ

環境教育を中心としたエコシステム構想と環境教育のプロ育成と職業化

チーム名：ESD・環境教育チーム
メンバー：大羽 幸代、樫森 俊哉、杉浦 剛一、高橋 剛、藤本 延江
アドバイザリー講師：町田 洋、古川 陽輝、羽田 裕

現状の把握

愛知県の大きな課題：

カーボンゼロ宣言ができていない県

（2021年10月29日時点）※

「この状況で大人たちからできることは？」

課題点 環境に対しての意識を持ちつづけられていない
環境活動へのアクセスがしやすい状況がない

愛知県で現在提供されている環境教育

- あいち環境学習プラザ
- 森の学舎キッズクラブ
- 環境学習副読本　など

▶ 時間・場所が限られる
定員があるなど
全員が参加・利用
できる状況でない

※愛知県では2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロを表明できるよう企業との協業も含め調整中だが、実現までの裏付けが立証されていないため、あえて表明をしないという姿勢を貫いている

提案の内容

2040年におとなになる次世代の経済活動・社会活動を担うこどもたちと一緒に、現在の大人たちがともに環境を考え、継続的に環境活動に参加できる世の中を作るための環境教育のプロを育成

20年後の未来を今から作っていくために

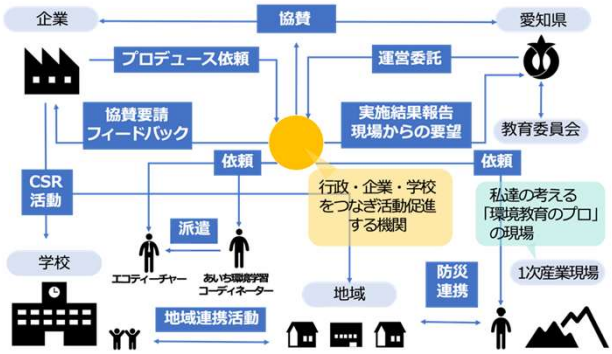
ここから20年のスケジュール

2022～2025	2026～2030	2031～2035	2036～2040
STEP1	STEP2	STEP3	STEP4
【環境教育浸透活動】 ・環境教育DXによる充実化 ・「森のがっこう」など屋外活動	【各地域屋外活動開催】 ・「森のがっこう」の各地域での活動 ・フィールドをバーチャルからリアルへ	【専門学校の設立】 ・環境についての知識を身に付け、フィールドワーク実践ができる育成機関の設立 ・第1次産業＋環境の職業確立	【卒業生のプロ化】 ・専門学校卒業後にプロとして、愛知県内の各地に配属、学校・企業・地域と連携を図り、環境教育を推進する存在へ

年代別アプローチ

小学校4年生(10才)	中2～高3生（14～18才）	大学生～社会人(20代)	社会人(20～30代)
STEP1	STEP2	STEP3	STEP4
タブレット・PCなどアプリを入り口に環境・自然に対する興味の促進 野外への誘致	各地域のこどもたちが自分たちの住む地域周辺の自然に触れられる機会の確立	自ら環境活動を選択して参加、周囲へ発信・アプローチできる、知識や情報収集能力の取得	サードプレイスやコミュニティの選択として環境活動への参画が当然となる社会に

地域に根ざしたエコシステムの構築



20年後に向けた提言の概要

環境教育を牽引する存在が育つ未来へ

環境の正しい知識・技術を持った環境教育のプロフェッショナルをこの20年で育成し、環境に大きく関わる一次産業を担う現場で環境教育のプロを職業化することで、環境活動へのアクセスを継続する

提言１ **こどもをはじめ、誰ひとり取り残さない環境**

提言２ **教室単位での学び→県単位での学び→実際の自然の中での学びへ**

提案実現のための具体的な取組（アクションプラン）と実現可能性

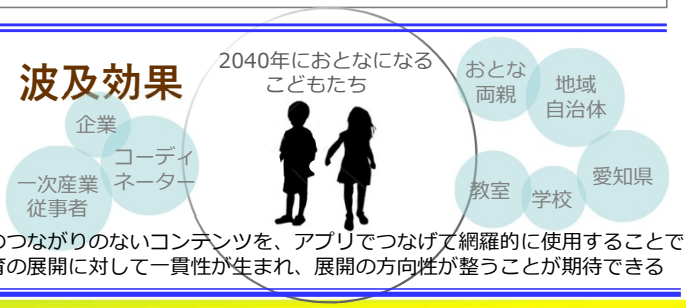
「環境教育DX」を まずは環境副読本のアプリ化から

自治体から配布されているPC、タブレットに環境副読本をアプリとして導入し
２次元に書かれた内容を、動画、立体地図など書かれている内容とリンクさせることで
自分たちの住む愛知県内の自然を
体感的に理解してもらう仕組みを作る

学びを2次元から3次元へ、平面から立体へ

実現可能性：
①毎年発行の環境学習副読本制作費とアプリ作成費用はほぼ同等
②アプリは作成後数年はそのまま使用が可能、更新も簡便

波及効果



現在横のつながりのないコンテンツを、アプリでつなげて網羅的に使用することで環境教育の展開に対して一貫性が生まれ、展開の方向性が整うことが期待できる